

平成25年第4回(9月)上越市議会定例会

総務常任委員会資料【所管事務調査】

新水族博物館の検討状況について

1 経過概要	1
2 第4回上越市水族博物館基本計画(案) 見直し検討委員会の開催結果について	2~5
別冊1: 配付資料		
別冊2: 来場者アンケート結果		

所管委員会	総務常任委員会
提出課	企画政策課

新水族博物館の検討状況について

1 経過概要

平成 19 年 2 月に策定された上越市新水族博物館基本計画（案）の見直しに当たり、4 人の専門家からなる「上越市新水族博物館基本計画（案）見直し検討委員会」において、建設場所や施設規模、展示内容等について検討を進めている。

(1)検討委員

専門分野	氏名（敬称略）	所属・役職
建 築	水 野 一 郎	金沢工業大学 副学長
水 族 館	長 井 健 生	公益社団法人日本動物園水族館協会 専務理事
テーマパーク	中 川 敬 文	U D S 株式会社 代表取締役社長
公 共 空 間	岩 佐 明 彦	新潟大学工学部建設学科 准教授

(2)会議内容

5 月 15 日 （水）	<p>第 1 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内各所及び現水族博物館の視察。 ・事務局から、整備に向けた検討経過と現基本計画（案）の内容、検討委員会の概要を説明し、会議の進め方等について協議を行った。 <p>→11 月を目途に、委員会としての結論をまとめること等を確認した。</p>
7 月 5 日 （金）	<p>第 2 回</p> <p>建設場所については、整備に向けた検討経過や、市全体の地勢等をみて適地を協議。</p> <p>→来館者のアクセス性や海水取水設備、海との親和性などを考慮すると、直江津地区、現在の水族博物館周辺が適地であるとされた。また、現基本計画（案）にある案のうち、B 案は検討対象外とされた。</p> <p>基本コンセプトと展示テーマについては、現基本計画（案）の内容を確認し、見直しの必要性等を協議。</p> <p>→現基本計画（案）の基本コンセプト等は見直すこととされた。</p>
7 月 25 日 （木）	<p>第 3 回</p> <p>建設場所については、具体的な配置計画案にもとづき協議。</p> <p>→来館者の移動や安全確保などの施設管理面や各案の整備コスト等から、実現性の低い案は外すこととされた。</p> <p>基本コンセプトや展示計画については、前回会議に続いて協議。</p> <p>→引き続き検討することとされた。</p>
8 月 27 日 （火）	<p>第 4 回</p> <p>市民意見を今後の協議の参考とするため、市民と検討委員との意見交換を実施。</p> <p>→内容は、次頁のとおり。</p>

(3)今後のスケジュール

- ・11 月までに 2～3 回の検討委員会を開催し、検討結果を市長に報告する予定。

2 第4回上越市水族博物館基本計画(案)見直し検討委員会の開催結果について

(1)実施概要

日 時：8月27日(火)午後6時00分～8時10分

会 場：上越文化会館 中ホール

来場者数：130人

内 容・はじめに、これまでの検討経過を事務局が報告し、その後、各委員が新水族博物館への提案や期待を述べた。

・それらを参考に、検討委員と来場者との意見交換を行った。

・また、発言できなかった来場者の意見も今後の検討の参考にするため、アンケートも行った。

配付資料：別冊1参照 来場者アンケート結果：別冊2参照

(2)検討委員の発言要旨

〔水野委員〕

- ・ 上越市の水族館の活性化を考えると、群馬から軽井沢・長野、上越を経て日本海に出るというのは、非常に良いテーマ性があると思う。
- ・ 上越のことだけではなく、もっと広域に考える必要がある。日本海は、北海道の宗谷岬から北九州・福岡、長崎まで。上越市の水族館は、その日本海のだ真ん中に位置する。「日本海ど真ん中水族館」という名称も良いのではないか。
- ・ 親しみやすい水族館にしてほしい。外から自由に水槽を見られるところがあっても良いのではないか。無料ゾーンがあれば、水族館周辺が日常の散歩道になると思う。
- ・ まちづくりを行う際に、市民が参加する委員会はよくある。しかし、今回のように建築のコンセプトや形態が決まっていない状態で市民から意見を聞くというのは、初めての経験である。面白くなることを期待している。

〔長井委員〕

- ・ 上越市の水族館は、80年という長い歴史を持つ貴重な水族館であり、これがリニューアルされて続くことは、誇らしいことである。
- ・ 公立水族館は60ほどあるが、規模の大小が違えども展示してあるものは、それほど変わらない。どれも観光施設の要素が強く、珍しい生物を飼うなどしても長続きはしない。
- ・ 地域振興も大事であるが、今後は生物の保全活動が重要になる。市の財源で、世界の動物を絶滅から守っていることにもつながる。また、水族館には教育活動も求められており、上越市の水族館にも、こういった要素を取り入れていく必要があると思う。
- ・ 地方の水族館の特徴として、高齢者の利用が増えていることが挙げられる。高齢者対応が可能な水族館にしていく必要がある。

〔岩佐委員〕

- ・ バブル時代が終わってから新しい建物は造りづらいが、必要なものは造らないといけな。造るとなれば、長持ちして有効に使われるものを目指さなければならない。

- ・ いかにより、色々の人が、色々の目的で利用できるかが重要であり、建設目的以外の要素も受け入れる必要がある。「水族館を造る」ではなく、柔軟に「水族館のような学校を造る」、「水族館のような公民館を造る」と考えても良いと思う。
- ・ 現在の水族博物館周辺には海水浴場もあり、海を眺められる高台も公園もある。建物単体を見るのではなく、周りの施設をどう組み合わせるっていくか、日常的に使う施設とどう関係づけていくかが重要になるのではないかと。
- ・ エデュケーションとエンターテイメントを組み合わせる「エデュテイメント」という言葉が最近使われている。勉強しにいくだけでもない、遊びにいくだけでもない、両方が楽しめる空間が求められているのではないかと。

〔中川委員〕

- ・ 色々の集客施設の企画・設計にかかわってきた経験から、ただ単に見て楽しむだけではなく、水族館に行かなければ体験できない、海や生物の仕組みなどを楽しみながら学べることを一番のコンセプトにすべきと思う。
- ・ 「五感で楽しむ日本海」というキーワードを提案している。首都圏から一番近い日本海ということアピールしたいが、東京の人間からすると日本海には「暗い・寂しい」という印象があり、楽しいイメージをどのように付け加えていくかが大事である。
- ・ 来館者が選んだ魚を飼育する「マイフィッシュボックス」というのはどうか。自分が選んだ魚の成長を楽しむことができるようにすれば、水族館へ通わせることにつながる。
- ・ バックヤードには、表の華やかさとは違う魅力がある。水族館の飼育の仕事を体験できるようにすると面白い。
- ・ キッズスペースをもっと充実させたい。魚にまつわる本の読み聞かせができるなど、魚と関連させた設備があると良いのではないかと。
- ・ 毎日、高齢者が子供を連れて来られるような安心できるスペースを兼ね備えていると、それだけでも価値がある。経済波及効果とは違った存在意義が水族館に出てくると思う。
- ・ 色々の水族館に行ってみたが、日常的に通える水族館はないように思えた。上越市の水族館は、子供を安心して連れて行けて、海や魚との関係性があり、上越市民にとって誇りに思えるような施設になってほしい。

(3) 検討委員と来場者との質疑応答

中学生まちづくりワークショップ（主催：上越市教育委員会）において、「発信！上越らしさ 水族博物館 秘 大作戦」をテーマとしている中学生が検討内容を紹介。

- ・ 家族連れが来やすい水族館、結婚式ができる水族館をテーマに検討した。結婚式ができる水族館は、今までにない新しい施設になると思う。
- ・ 現在の水族館の良い点と課題を整理した。良い点としては、「地域に密着している」、「見た目が涼しそう」、「珍しい生物がいる」、「イルカショーなどのイベント」、「海の近くにある」といったことが挙げられた。課題としては、「ぱっとしない」、「何を見れば良いかわからない」、「水族博物館という名前が固い」、「一日中いられない」、「水族館の周辺に何もなし」ということが挙げられた。
- ・ そして、「また来たいと思われる水族館」をテーマに、すぐにできることと建て替えの際に検討してほしいことについて話し合いをした。すぐにできることとして、「魚に名前を付ける」、「水族館の名前・愛称を募集する」、「シンボル・ゆるキャラなどをつくる」、建て替え時に検討してほしいこととしては、「旬の魚や季節の生物の展示」、「地

域に関係する魚の展示」、「綺麗なカラーライトで水槽を照らす」、「水槽配置の工夫」というアイデアがあった。

〔岩佐委員〕

- ・ 問題点や課題を見つけて解決策を検討しており、また、アイデアも実現性や地域に親しまれるための視点があり感心する。
- ・ 「結婚式ができる水族館」というのは突拍子もないことかもしれないが、家族連れが多いというデータの裏付けによるものであれば、非常によく考えられていると思う。

Q 建設場所について

- ・ 現在の場所周辺に建設することは妥当か。敷地面積を確保できるのか。
- ・ また、市内の各種施設の位置が分散しており、観光客は一か所で時間を過ごすことができていない。下門前に施設が集約しているため、リージョンプラザ上越周辺への建設を提案する。取水が大事というが、下門前ならば河川敷から取水もできるのではないかと。人工海水の利用も考えられる。

〔事務局〕

- ・ 日本海をテーマに据えることから、新市の約 39km の海岸線を見渡し、アクセス性、波及効果、用地確保などの面から現在の場所がベストと考える。内陸に建設することは、海水の取水などから困難である。
- ・ 敷地は周辺の民有地も含めて考えることで、十分確保できる。
- ・ 来館者が、他の施設や地域内へ迷うことなくスムーズに移動できる仕掛けを考えていきたい。

Q 水辺の生物の展示・自然を学ぶ発信地に

- ・ 市内各地に生息する水生昆虫や水辺の野鳥などを展示してはどうか。ただし、全てを展示するのは容易ではないと思うので、資料や地図を用意して、来館者が水族館で学び、実際の生息地に行くことを思い描くようにしてはどうか。自然を学ぶ発信地にするような視点を持って、検討してほしい。

〔長井委員〕

- ・ ご意見のとおり、年間を通して、あらゆる生物を展示するには広大な土地と莫大な費用がかかる。私が以前勤めていた水族館では、大型バスを 1 台買って自然観察会を行ったり、小学校への出前講座なども実施した。そのようなことができる人材をどう確保するかという問題はあるが、水族館の施設外の活動として十分に可能であると思う。

Q 展示計画への提案

- ・ 幼稚園児から海洋生物研究者まで、多くの人利用でき、学びや研究の場となる水族館にしてほしい。時代ごとに、どのような魚介類が生息していたのかが分かるようにしてはどうか。
- ・ また、三層くらいの水槽で、水深ごとの生物を展示できないか。保倉川や矢代川、桑取川で生息生物は異なる。それを展示できないか。

- ・ 人間の本能的な欲求を満たすものを検討してほしい。釣りができる、海岸でバーベキューができる、船を見れば乗りたくなるので観光船を用意するのはどうか。

〔中川委員〕

- ・ とても共感できる意見である。子どもから大人まで楽しめるように、知的好奇心を満たす工夫が必要。
- ・ 深海を表現する三層水槽については、検討委員会で提案したが、技術的に難しいとのことであった。

Q 大水槽について

- ・ 大水槽のイメージ図に関心を持った。この水槽の周りのスロープを使って、1時間くらいかけて昇降しながら見学できるようにしてはどうか。
- ・ イメージ図では真ん中に魚がいるが、外側に魚を泳がせて、中にスロープをつくれば、海の中を歩いているような水槽になるのではないか。

〔長井委員〕

- ・ 先ほど三層水槽の提案があったが、これはできない。最初の1週間くらいは深さごとに魚を区分できるが、水槽環境に慣れてくると捕食される魚が出てくる。また、陰に隠れようとして、お客さんから見えなくなる魚も出てくる。
- ・ どこの水族館でも、オープン当初はコンセプトどおりの大水槽になっている。しかし、成長して大きくなってしまった魚を殺すわけにもいかず、他の水槽から大水槽に移すようになってしまい、テーマ性のない水槽になってしまう。

〔岩佐委員〕

- ・ 夢があって面白い。世界最大の水槽は海そのもので、自分たちが海に向かうという発想が必要かもしれない。現実的には難しくても、海底を撮影できるカメラを使うことで表現できると思う。

〔水野委員〕

- ・ 円筒で3階建てくらいの高さのある水槽を持っている水族館がある。そこでは、子供たちは20分くらいかけて見ている。魚の種類や見せ方で、1時間かけて見られるようにすることも不可能ではない。
- ・ 魚にカメラを仕込んで、自動操縦で海底を映してはどうか。ハイテク技術を生かすことで、展開が広がる。

Q 整備の進め方、収支について

- ・ 整備に向けて、大勢の市民の意見を聞く仕組みをつくってほしい。
- ・ いくら立派な水族館を建てても、赤字では維持できない。20年経っても単年度黒字を出すようにしてほしい。

〔事務局〕

- ・ 本日、大勢の市民の皆さんが集まってくださったのは、整備への期待感の表れであると思う。今後も、議会や市民との議論を行い、その方向性を出していく。
- ・ 単年度収支の議論は難しい。20年間のトータル収支で8億円のプラスになるということ。